時事新報

明治十九年一月三十日　土曜日
舊乙酉十二月廿五日　(庚寅)
日出午前七時三分　日入午後五時二十四分
月出午前二時五十六分　月入午後一時三十一分
滿潮午前一時零六分　午後一時四十五分
(西曆一千八百八十六年)

社告

○時事新報豫約御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便税モ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ遞送相見合セ候

○新報代價並ニ郵便税トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度紙面ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御遞送申上候新報ノ帶封表面御名前ノ脇ニ(何月何日)ト記入仕置候間御覧可被成下候是ハ此日マデノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報遞送仕候ト申ス事ニ候

○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ(時事新報社)ト致シ郵便爲換ナレバ(東京郵便本局)ニテ受取ルベキ樣御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候儀御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テモ苦シカラズ候

○時事新報豫約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報

緬甸の亡國を見て新聞紙の効力を知る

今の世の中にて理非曲直の論は聲の高くして騒々しきものが常に全勝を占むるの勢を成したるが如し世界の事は世界の人皆な之を見ると得ず、見ざるものは見たる者に聞て其事を知るの外なし然るに其實見者が口も筆も達者にして文明世界の傳達機なる新聞紙を利用し聲高く世上に論告する時は其事を見るに及ばざる者は遂に之を信ぜざるを得ず即ち衆口金を鑠すものにして世上の事實に於て少なからざるの例なり今其一例を擧ぐれば先頃英國と緬甸との戰爭あり一戰して緬甸大敗績、國王面縛して英軍に降り緬甸國は英國の亡ぼす所となれり此戰爭の前後、事の始末を報道したるものは一切英國人の手に成る新聞紙にして俗に云ふ手前味噌の筆加減にや万事万端緬甸國君臣は迷妄失計のみを報じ戰爭の諸原因中緬甸王セボーが無道暴虐にしてイラワヂー河に通商航行する孟買緬甸商會に無法の罰金を課したる事其大原因ありと云ひ又戰爭の初にも緬甸王は火其首を燒くと夢みて自滅の兆なりしとは悟らず妄りに蟷斧を英軍に向けたりと云ひ或は王は佛法に通曉し我國佛法にて英軍來り敵を可らずとて悠然たりしと云ひ或は宮中に舞ひたきば是れ英人は我と喰ふの兆なりとて小兒を殺して其犠牲に供えたりと云ひ唯其報道のみを聞けば妄謬不經國の滅亡を招くも固より其所ありと想はしむるに足れり又兩軍攻防の際にも緬甸の群臣は皆な無膓、一人の勇奮義を唱へて社稷の維持に奔走したる者あるを聞かず如此の君王、如此き臣民が相集合して上下と爲り亞細亞洲中屈指の一國として數百千年の間に成立したるは不審千萬と云はざるを得ず緬甸固より野蠻あり不文あり我輩敢て之を庇護するの念なしと雖ども凡そ天地間の人類が一社會を成して之を維持するには其維持の元素として多少の智德あるを得ず況んや其社會も一時の烏合にあらずして幾百千年の久しきを經たるものに於てをや緬甸國人決して禽獸に非ず假令へ強ひて之を獸視するも獸中自から報國盡忠の士人ある可きは人間社會の約束に於て爭ふべからざる數なれば新聞紙の報道盡く信ず可らざるのみか之を信ずべきの事實とするも緬甸の利益のために記すべき事柄は之を掩ふて世に明にせざりしものと推察せざるを得ざるなり我輩の臆測を以てすれば器械の良否兵の精粗、用兵の巧拙等遙に相當らざるがために緬甸も今は英國の亡ぼす所となりたれども其際緬甸君臣の擧動に就ては隨分見る可きものありしも報告の手段を缺くがために美事偉蹟の草萊に埋沒したるものなしと云ふ可らず試に緬甸國に入り其亡國の民に就て親しく事の實際を聞きたらんには英人の處置も聞くが如くに穩當ならず緬甸君臣の擧動も聞くが如くに愚魯ならざりしを發見することある可し今日の實際に於ても亡國の箕子城墟を過ぎて麥秀漸々を歎ふものあらん不平の殷浩空を仰で咄々怪事を書するものあらん細雨蕭々として雲慘澹空城落日雀鴉乱れ亡國の志士髪冠を衝くものもあらんと雖ども如何せん彼等の手には其不平を訴ふるの機具なきが故に其衷情を叩て天下仁人の同感を促すこと能はず利害相反する英國人は其新聞紙に利己一偏の記事を載せ、傳へ又傳へて世界各國の新聞紙に掲載するの便利あるがために英人の戰勝、緬甸の亡國、恰も天然の約束あるが如く世界の人は有無の間に看過して現在人の家國を奪ふたるものを見ながらも曾て之を怪しむものなくして世界の惡、盡く緬甸に歸するを見る畢竟文明の利器たる新聞紙が天下衆人の口を無言にしたるものにして今の世の中に理非曲直の論は聲の高くして騒々しきものが全勝を占むるの趣を見るに足るべし偉なる哉新聞紙の効力、今人動もすれば新聞紙を輕視して其實價を知らず又その實力を知らず甚だしきは之を邪魔にして其働を無に歸せしめんとする者さへなきに非ざれども唯是れ小兒の考にして世界の大勢を辨へざるの愚を表するに足る可きのみ苟も外交上に大切なる國の聲價より一個人の評判に至るまでも新聞紙は力能く之を抑揚するの事實を悟りたらば之を重んじ之を友として治に乱に其働に依賴して之を利用するこそ文明人の一大事業なりと申すべけれ我輩は今度緬甸の亡國に就き偏に新聞紙の効力を感じ我國の人民が其効力を知りて大に之を利用せんことを希望するものなり

官報

○叙任　明治十九年一月廿八日

任一等警視兼檢事　檢事從六位勳六等　林三介

○辭令

司法權大書記官　入見恒民

明治十九年代言出願人試驗委員長ヲ命ス（一月廿八日 司法省）

司法權少書記官　加太邦憲
仝　龜山義貞
仝　山田喜之助
判事　一瀬勇三郎
仝　津村董
仝　樽田章平
檢事　伊藤直
司法省御用掛　河村善益
仝　田部芳
仝　鶴丈一郎
仝　杉山三保松
仝　香坂駒太郎

明治十九年代言出願人試驗委員ヲ命ス（同）
（各通）
（右二件本年一月廿九日官報）

雜報

○銀行會社利益配當表（昨廿九日の續）

銀行會社	配當
東京貯藏銀行	一、五
名古屋銀行	一、九
靜波東遠銀行（靜岡縣）	一、〇
岩津銀行（同）	一、〇
御厨銀行（同）	一、〇
福田銀行（同）	一、八
山名銀行（同）	一、〇
掛塚銀行（同）	一、七
野崎銀行（同）	一、〇
掛川銀行（同）	一、七五
大宮銀行（同）	本季無配當
袋井銀行（同）	一、九
森町銀行（同）	一、一
藤枝銀行（同）	一、八
清水銀行（同）	一、六
三島銀行（同）	一、〇五
燒津銀行（同）	一、
相良銀行（同）	一、
濵中銀行（同）	一、一
掛川會信社（同）	一、二
中泉銀行（同）	一、二
扇町銀行（埼玉縣）	一、三
入間銀行（同）	一、三
小川銀行（同）	一、二
比企銀行（同）	一、二
馬入江陽銀行（神奈川縣）	一、〇
八王子旭銀行（同）	一、八六
青梅銀行（同）	一、一
八王子東海貯蓄銀行（同）	[illegible]
八王子武相銀行（同）	一、四
信州小諸銀行	一、六
信州須田銀行	[illegible]
同更科原銀行	昨年閉社
同上田銀行	一、六四
同波瀬銀行	一、二四
同古市銀行	一、三二
同綾部銀行	一、一
同綾部暁銀行	一、九
岩代鳥渡銀行	[illegible]
三期當儲算	一、三
江州日野銀行	[illegible]
常州太田銀行	一、二

（未完）

○倫敦の日本村　ダナカー　バヒクロサンなる人の盡力にて倫敦のナイトスブリッヂに開設し大に世上の評判を取りたる日本村は昨年五月火災に罹り燒失して其後再建に着手したる由は嘗て聞く處なりしが昨年の末に至り其工事も已に落成して再び公衆の縱覽を許すことゝなりたる由此度は場所の廣さも前に倍し建物も總て堅牢なる材料を用ひ木材其他の可燃質の材料を用ひたる處は總てシエーナイトと云へる藥を塗り館内の布帛も火災を防ぐを旨としたれば此度は火事の恐なかるべしと云ふ又村落は右の館内に在りて前のよりも餘程大仕掛に作り其間に七條の廣き街道を設け奇麗なる步場數箇所あり村内の家屋肆店寺社等も前よりは大にして且つ多く又場内に一箇所は假庭と日本ひ之に日本の田舍風の橋を架け渡し其下に激湍の奔流する狀を摸造したるは日本の風景の眞骨を描出したる思ありと云ふ又村落の傍に新たに廣さ一千五百餘人を容るべき劇場を造り此處にて日本の歌舞を興行し又場内には日本の茶見世もありて來客には日本人又は西洋人をして茶を進めしめ來客は好みに任せて洋食の一口料理をも喫することを得べく追ては場内に大なる料理店一箇所を開設すべき手筈の由右の日本村再建の工事を督したるはハムフレースと云へる人にて其建築の雛形は倫敦府工務局の認可を得たるものなる由右村落の開業に先ちバヒクロサン氏は一日倫敦の諸新聞記者其他を招き場内を一覽せしめたる後酒肴を具へて之を饗應せしに其席にて來客等が各々氏が首尾よく大事業を爲し遂げたることを祝せしかばバヒクロサン氏は之に謝辭を述べ且つ云らく此度は此村落が再び燒亡することを防がん爲めに及ぶべき丈けの用心を加へたり左りながら若し不幸にして今一度燒け倒るゝあらんには斷く申す拙者も亦之と共に燒け倒るゝあらん（笑）先きに此村落の災に罹りしとき拙者はハムフレー氏の勸めに從りて一兩日間保養の爲めヲウシヤムなる拙宅に歸り居りしに忽ち村落が火に罹りたりとの電報を得て急ぎ倫敦に馳せ來れり拙者は當時心も心ならざりしが程經て心氣少しく靜まりたるに及び直ちに之を再建せんとの考を起したれば其節職人より火災に遇ふて如何するやと問れたるとき即座に今より五六週間に之を建て直す積りなりと答へたり（笑）然るに實際に至れば保險の事に付ての面倒を脱却する前にも既に五

六週間の時日を費さ
方に送らざるを得
りたるにならず即
爾後拙者は此村落
たれども遂にあふ
を得たり拙者は此
さる如き不幸なり
村落は孰れも燒亡
て拙者一人の損害
友の被ふりたる損
り此一事にて我々
ざるを知さり左り
全く成り萬事整頓
の如し夫れ諸備
一場の日本芝居と
るものあり（ヒヤ
に任せず其指支よ
手代より入用の品
品が未だ到着せず
のなり（笑）乍去明
其上にく芝居と御
く述べ來りて終り
大に今日の面目を
樣新事を差加ふべ
存餘えて西洋の人
とを希望すと述べ
トに據る）

○高知通信　一月
○婦人の氷縣
め來縣して當地の
彌太郎氏の北堂に
健の由にて今春は
十八年中當縣各裁
、輕罪公判は三千
民事は始審百十四
ありと○落成と新
報道したるみとあ
令書記官刑事檢事
十餘名同所に來會
審裁判所檢事局
り○汽船の運賃
郵船會社汽船の
鏡、上等五圓なり
かさり○酒造
昨年抔は例年よ
此頃に至り俄に
ものもあれは一
のみと○尾牛
頭餘にして一億
覽所　當地帶屋
る文林堂の主人
急に相當すると
くるよし○社會
に於て大法會を
者が發起にて聯
兼善氏は三年來
高知公園にて相